8頁目

卒後研修会、卒後特別研修会及び記念講演

今年度に実施した研修会（卒業生向け）・講演会についてお知らせいたします。

01　令和６年度（第44回）卒後研修会

　本研修会は、卒業生に対する支援の一環として、同窓会の協力の下で研修会を開催し、広く理療師として必要な知識や技術の向上を図ることを目的としています。今回は、９月１日（日）に「痛みの評価から考える慢性腰痛に対する新たなアプローチ（─ 地域に求められ貢献できるあはき師をめざして ─）」をテーマに、筑波技術大学保健科学部准教授の近藤宏先生をお招きして開催いたしました。慢性腰痛に悩まされている方は非常に多く、あん摩マッサージ指圧、はり及びきゅう施術の対象となることも少なくありません。また、慢性腰痛は社会生活に様々な影響を与えていることも報告されています。本研修会は、施術者として地域に求められ貢献できるあはき師をめざすうえで充実した研修会となりました。

02　令和６年度卒後特別研修会

　本研修会は、卒業生に対する支援の一環として、臨床技術及び関連知識を修得するとともに、地域のリーダーとなりうる理療師の育成を目的としています。今回は、10月20日（日）に全体テーマを「鍼灸の魅力再発見　～最小の刺激で最大の効果を～」と設定し午前・午後の２部に分けて開催いたしました。午前は、「温めるセルフケアのすすめ」として、せんねん灸発売元セネファ株式会社営業管理部次長森澤孝次郎先生をお招きいたしました。午後は、「鍼灸師にできるプライマリケア」、実技「鍼1本で変化を起こす」として、賀久（かく）総合鍼灸所院長・大牟田鍼灸マッサージ師会会長の賀久（かく）哲也先生をお招きいたしました。テーマ設定にあるように、鍼灸の魅力を再発見するとともに、奥深さを学ぶことができる充実した研修会になりました。

03　令和６年度障害者週間記念講演

　本講演は、障害者週間に合わせて、全利用者・職員を対象に講演会を実施することにより、視覚障害者への理解を深めるとともに、利用者の日常生活や訓練に対する意識の向上を図ることを目的としています。今回は、12月４日（水）に「支援する側とされる側の立場を経験してわかった共生社会の在り方」をテーマに　一般社団法人日本心のバリアフリー協会代表理事杉本梢様をお招きいたしました。この講演では、①視覚障害者として生きるということ、②日本心のバリアフリー協会立ち上げ、③共生社会の在り方について、視覚障害当事者の立場から御講演いただきました。聴講者は、同じ視覚障害者として共感できることや心のバリアフリーが充実していくことで、より良い共生社会が作られることを実感することができました。

　以上のように、　当センターでは利用者さんのみならず卒業生及び職員を対象に研修会・講演会を実施しています。通常の訓練に加えて、卒後支援の充実や障害者理解を深めることは当センターの重要な役割であると考えています。

写真　左下段　講演する杉本講師。講師の横には大きなスクリーンがあり、「支援する側とされる側の立場を経験してわかった共生社会の在り方」という文字が投影されている。

写真　右下段　利用者と握手する杉本講師

8頁目、以上です。

他のページも含む全体版は下記のリンクからご覧下さい。

[ファイルのダウンロード](https://www.rehab.go.jp/fukuoka/files/centernews128.docx)